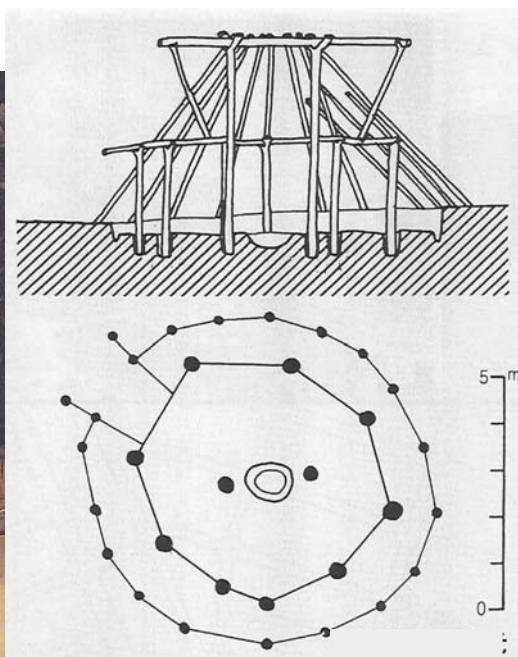


弥生時代の森小路遺跡

森小路遺跡は、淀川南岸の自然堤防上に人が住んだ**ムラ跡**で海拔2.5m～5mの**低層(平地)遺跡**として**貴重**である。弥生中期と古墳中期の各期出土品は多数あるが、弥生後期から古墳前期の出土品はなく、その間森小路の人々は、河内湖や淀川の洪水被害のため移動したと推測されている。その後人々は、海から海への交通の要所で、**大陸文化の受け入れ**や物資交流の盛んな所として**定住**し栄え、農耕地の開拓により強化したと考えられている。現在住宅地の新森4～5丁目付近、地面をわずか1mも掘り下げた道路工事や調査(約100件)時の砂層からかなり正確に6世紀頃のもの・榎並の庄の荘園期のもの・室町期のものも出ている。



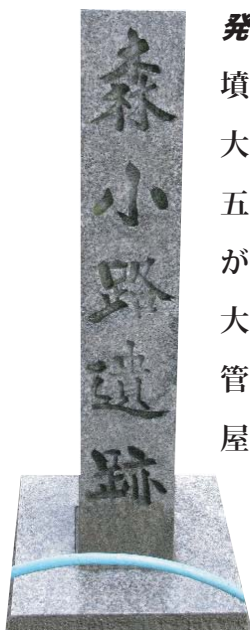
■ 弥生時代の生活
(写真:大阪府立弥生文化博物館)



■ 竪穴式住居の復元
(資料:(財)大阪市博物館協会
大阪文化財研究所)

森小路遺跡の発見・調査

森小路遺跡は、**昭和6年**の土地区画整理の際に**発見**された**主として弥生中期の集落遺跡**で、古墳時代・さらに飛鳥・奈良時代のものまで出土し、大阪市顕彰史跡である。京阪森小路駅から東へ五分、新森4丁目の**新森中央公園**に**石碑**と説明版があり、公園の周囲約500mに分布している。大阪市は、昭和49年から遺跡調査を始め、下水管やガス管等の敷設工事とともに、又その後家屋の立替増加時に先立つ調査も行われた。〈小椋〉

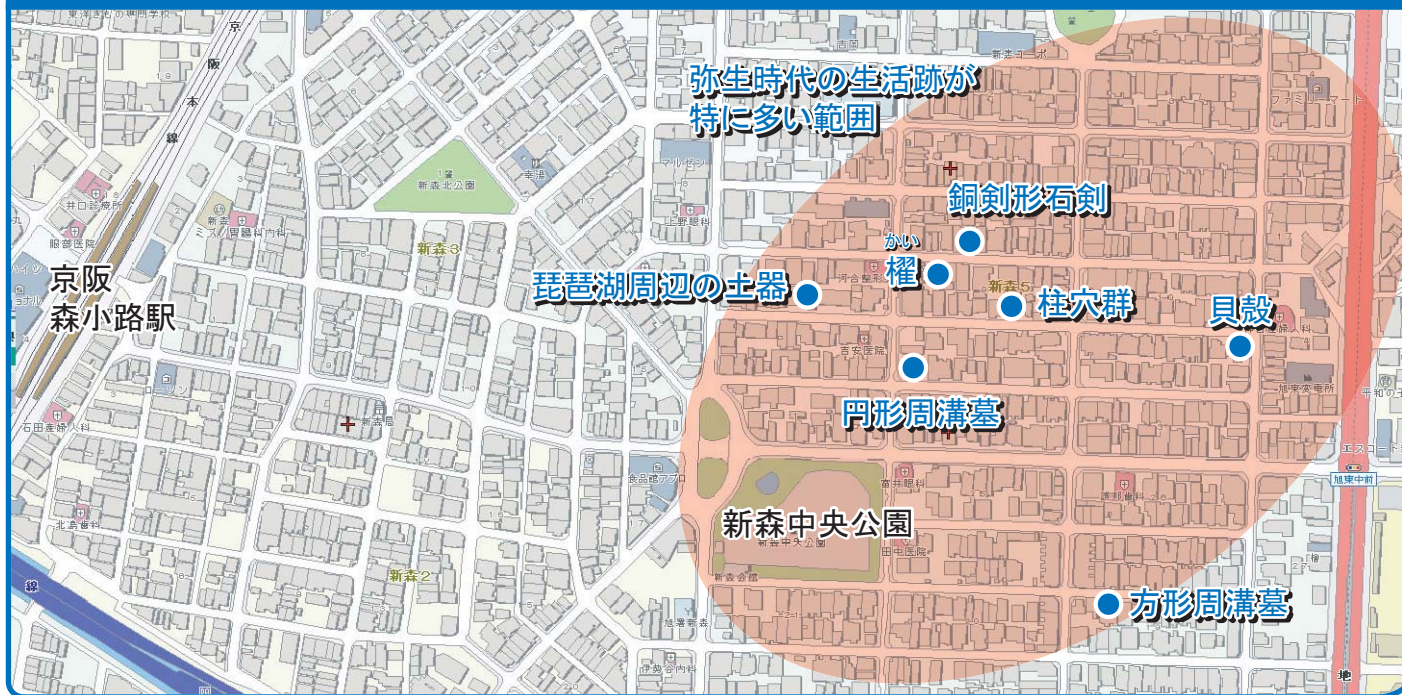


■ 新森中央公園の碑



■ 新森中央公園の説明版

森小路遺跡の主な調査地点



「弥生ロマン森小路」

弥生の小道 森小路

歩いて想う

遙かむかしの人々を

小道にロマン 森小路

弥生の人は 貝塚残して

消えてゆき

夢見る想いに

小道はつづくに 森小路

弥生小道に想いは遙か

夢見るロマンがつづいてる

ロマン続いて2000年

弥生の小道 森小路

〈小椋 H 21・1〉

旭区



ぜひ！
当時の様子が今に
つづくことを、多く
の区民の方に足を
運び見ていただき
たいです。

旭区役所の隣、区民センターの
郷土資料室(図書館への入り口)
で、出土品や復元模型のパネル
展示がされている。
弥生当時の様子をはじめ、その
後の森小路遺跡、旭区を学べます。



■参考資料

- ・区民センター郷土資料室資料
- ・宮本又次著「郷土の歴史・近畿編大阪府の歴史」
- ・(財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所資料
2005・1、1999・8・4
- ・大阪市いちょう大学講座 大阪の歴史と考古学資料